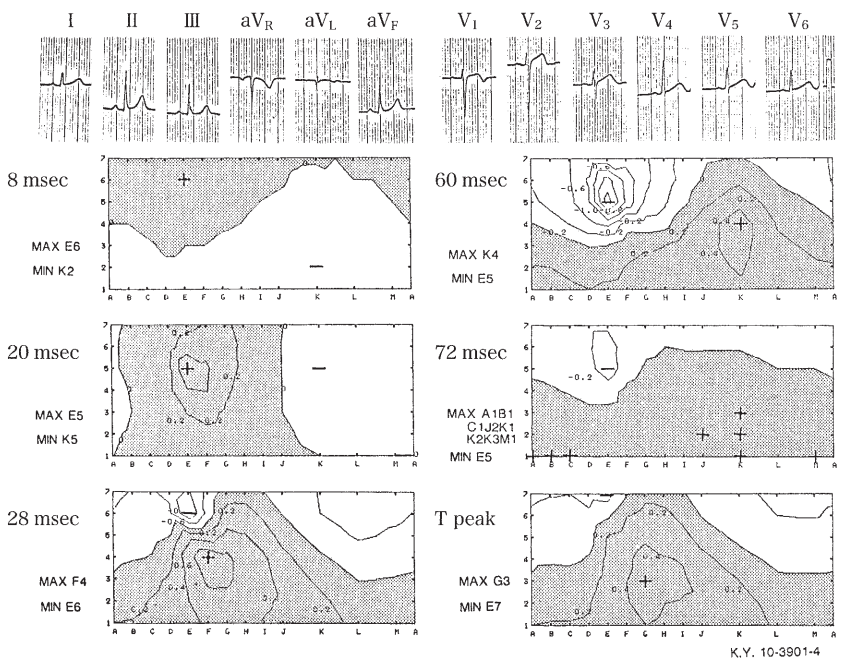


G 体表面電位図

胸壁上の広い領域から多数の単極誘導心電図を記録し、それらの電位の変化を二次元座標に電位図として構築する方法である。誘導点が多く、心臓の電気現象に関するより多くの情報を得ることができる。

■体表面電位図の誘導法

体表面上の多数の誘導部位から Wilson の中心電極を不関電極として、単極誘導心電図を記録する。電位図作成のための誘導点は 87 点で、胸骨正中線上にて第 2 肋間の高さを E6、第 5 肋間の高さを E4 と決定する。E4 と E6 の中点を E5 とし、等しい間隔で E7, E3, E2, E1 の位置を決定する。A と I 列をそれぞれ、右腋窩中線、左腋窩中線上に配置し、A 列と E 列の間を 4 等分して B, C, D 列を決定、同様に E 列と I 列を 4 等分して F, G, H 列を決定する。これと同間隔で J 列と M 列を決定し、J 列と M 列の間を三等分して K 列, L 列を決定する。これら 87 誘導点からの単極誘導心電図が同時に記録される。これらのデータをもとに 1msec 間隔でデジタル化し、画面上に等電位図 (Isopotential map) として描かれる (図 17-79)。このほか各誘導点ごとの心電図波形の時間積分値から等積分値線を結ぶことによって得られる等積分値図 (Isointegral map) や、心室興奮到達時間 (ventricular activation time ; VAT) をもとめ等しい VAT を有する誘導点を等時線 (Isochrone line) として結ぶことによって得られる VAT Isochrone map を描くことができる。臨床では、WPW 症候群の副伝導路の部位の診断、期外収縮の起源の同定、脚ブロックに合併した心筋梗塞の範囲の評価などに有用である。



K.Y. 10-3901-4

図 17-79 体表面電位図